

明治元年(慶応四年)三月十四日、  
明治天皇は京都御所紫宸殿に公  
卿・諸侯以下百官を集め、維新の  
基本方針を天地の神々にお誓い  
になりました。(五箇條の御誓文)  
この日、天皇みずから国難の先  
頭に立って伝統あるこの国を護  
り、世界各国との親交を深めつ  
国を隆昌に導こうとするにあた  
り、国民への協力を求める告諭  
(宸翰)が、御誓文とあわせて布  
告されました。

あめつち  
とこしえに 国まもります  
天地の神のまつりを  
おろそかにすな  
明治天皇

裏面もご覧ください。

『五箇條の御誓文』

- 一、広く会議を興し、万機公論に決すべし  
(広く人材を求めて会議を開き議論を行い、大切なことは全て公正な意見によつて決めましょう。)
- 一、上下心を一にして、盛に経綸を行ふべし  
(身分の上下を問わず、心を一にして積極的に国を治め整えましょう。)
- 一、官武一途庶民に至る迄、各其志を遂げ、人心をして倦ざらしめんことを要す  
(文官や武官はいずれでもなく一般の国民も、それぞれ自分の職責を果たし、各自の志すところを達成できるように人々に希望を失わせないことが肝要です。)
- 一、旧來の陋習を破り、天地の公道に基くべし  
(これまでの悪い習慣をすて、何ことも普遍的な道理に基づいて行いましょう。)
- 一、智識を世界に求め、大に皇基を振起すべし  
(知識を世界に求めて天皇を中心とする麗しい国柄や、伝統を大切に、大いに国を発展させましょう。)

神道知識の誘ひ「雅楽」

雅楽は、シルクロードを通して、  
中国大陸そして朝鮮半島を経由す  
る大陸系の楽舞と日本古来の声楽  
や舞の総称であります。  
五世紀頃から伝来したアジアの  
音楽舞踏を、平安時代に日本の伝  
統の美風と風土によつて完成させ  
たものです。  
神社の大切なお祭りに、神職がお  
供え物をお供えすることや、祝詞  
祈願をするのと同じ気持ちを持つ  
て、演奏したり舞を神さまにお供  
えして、お慰めします。そのこと  
よつて、式典に彩りを重ねます。

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp>



神社は心のふるさと

未来に受け継ごう「美しい国ぶり」